

第43回大会

日時・平成11年8月7日、8日

コース・那須野ヶ原カントリークラブ

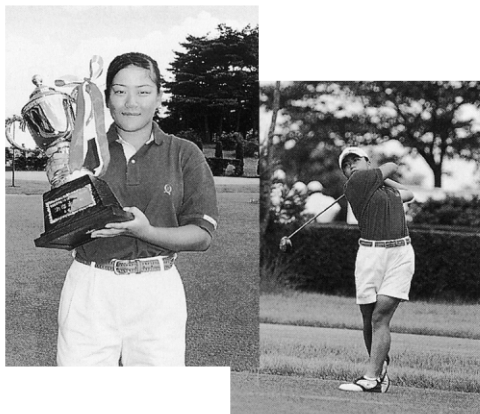
(男子6933ヤード、女子6222ヤード、男女各パー72)



栄えある文部大臣杯を手にしたのは、石川裕貴（広島・瀬戸内1年）と高松聖（香川・香川西3年）。初日24位の石川は最終日に自己ベストの68を叩き出し、通算2アンダー142で並んだ甲斐慎太郎（福岡・沖学園3年）とのプレーオフを制して初優勝、高松も通算2アンダー142で逆転の初優勝を飾った。

男子で初日トップに立ったのは1年生ながらノーボギー、4バーディー68の好スコアをマークした深草元彦（北海道・東海大四1年）。斉藤大将（茨城・水城3年）と長谷輝男（高知・明德義塾3年）が2打差の2位、甲斐が3打差の4位、市原弘大（埼玉・埼玉2年）、石川らが5打差の24位で追う展開となった。最終日、深草はプレッシャーからかショットに切れがなく10位に後退。混戦の中、同じ1年生の石川がスーパーチャージを見せた。那須3番パー3で15メートルのバーディーパットをねじ込むなど、前半だけで5バーディー、後半1つスコアを落としたものの68の自己ベストで、通算142でフィニッシュ。連日のアンダーパーと安定したゴルフを展開した甲斐とのプレーオフに突入。2ホール目、ボギーの甲斐に対し、石川はパーセーブ。「何だか実感が無い」と石川自身、信じられないほどの見事な逆転優勝で高校日本一の栄光をつかんだ。1年生王者の誕生と6打差の逆転劇は1995年に高校選手権となってから初の快挙となった。

女子は初日、田中亜依（愛知・春日丘3年）がただ1人のアンダーパー、71でトップ。1打差の2位に昨年の女王・紫垣綾花（熊本・東海大二2年）、桜井裕華（埼玉・埼玉栄3年）、高松の3人がつける。最終日前半、2アンダー34の桜井が頭ひとつ抜け出すも、後半2打差で追う高松が12番で追いつき、13番パー5では約40ヤードの第3打を直接カップに放り込む見事なイーグルで一気に逆転。前半1オーバー37とスコアを落とした田中も16番、17番で連続バーディーを奪い急迫するも2打及ばず通算144の2位。団体戦初優勝の勢いそのままに個人戦連覇を狙った紫垣も9位に沈み、高松が初の女王の座を獲得した。



全国高等学校ゴルフ選手権大会 文部大臣杯争奪 第43回個人の部 最終成績

◆男子の部

- ①石川裕貴
(広島 瀬戸内①) 142 (74・68)
- ②甲斐慎太郎
(福岡 沖学園③) 142 (71・71)
- ③長谷輝男
(高知 明德義塾③) 143 (70・73)
- ④下向 裕也(和歌山 串本③) 144 (72・72)
- ④山田真一郎(静岡 稲取③) 144 (72・72)
- ⑥市原 弘大(埼玉 埼玉②) 145 (74・71)
- ⑥小野林洋友(大阪 P L学園③) 145 (75・70)
- ⑥斉藤 大将(茨城 水城③) 145 (70・75)
- ⑥武藤 和貴(北海道 恵庭南③) 145 (72・73)
- ⑩加島 健(愛知 愛工大名電③) 146 (74・72)
- ⑩高村 賢治(福岡 柳川③) 146 (75・71)
- ⑩深草 元彦(北海道 東海大四①) 146 (68・78)
- ⑩平井 俊光(大阪 P L学園③) 146 (72・74)
- ⑩鈴木 健児(茨城 水城③) 146 (73・73)
- ⑩枚本 晃一(大阪 大阪桐蔭②) 146 (73・73)
- ⑩小林 寛裕(東京 安田学園③) 147 (77・70)
- ⑩中武 力(高知 明德義塾③) 147 (73・74)
- ⑬松村 道央(栃木 佐野日大①) 148 (73・75)
- ⑬谷田 亮(大阪 大阪桐蔭③) 148 (75・73)
- ⑬池田 浩二(香川 香川西②) 148 (73・75)
- ⑬渡辺 征伸(宮城 仙台育英③) 148 (76・72)

◆女子の部

- ①高松 聖
(香川 香川西③) 142 (72・70)
- ②田中亜依
(愛知 春日丘③) 144 (71・73)
- ③松村 瞳
(熊本 東海大二③) 145 (75・70)
- ④大川久乃
(北海道 駒大岩見沢②) 147 (74・73)
- ④古屋 京子(福岡 沖学園③) 147 (74・73)
- ④桜井 裕華(埼玉 埼玉栄③) 147 (72・75)
- ⑦下村真由美(埼玉 埼玉栄②) 149 (77・72)
- ⑦持田 恵理(福岡 沖学園③) 149 (76・73)
- ⑨紫垣 綾花(熊本 東海大二②) 151 (72・79)
- ⑩恒川 智会(愛知 栄徳②) 152 (75・77)
- ⑩山本 真美(東京 堀越③) 152 (75・77)
- ⑩佐藤 丹美(愛知 春日丘②) 152 (74・78)